

平成28年度 10月入学

横浜国立大学大学院 環境情報学府

博士課程 前期

学生募集要項

<http://www.eis.ynu.ac.jp>

問い合わせ先

理工学系大学院等大学院環境情報学府係〔環境情報1号棟2階〕

住 所： 〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台79-7

電 話： 045-339-4425, 4426

E-mail: kankyojoho@ynu.ac.jp

時 間： 9時から12時45分まで

および13時45分から17時まで

環境情報学府博士課程前期 専攻・コース別問い合わせ教員一覧

専攻名	コース名	氏名	電話番号 E-mailアドレス
環境生命学	地球環境	下出 信次	045-339-3442 shimode@ynu.ac.jp
	生命環境	平塚 和之	045-339-4413 hiratsk@ynu.ac.jp
環境システム学	マテリアルシステム	飯島 志行	045-339-3958 ijima@ynu.ac.jp
	システムデザイン	樋口 丈浩	045-339-3697 higuchi@ynu.ac.jp
情報メディア環境学	情報メディア学・ 環境数理解析学	森 辰則	045-339-4132 tmori@ynu.ac.jp
		西村 尚史	045-339-3379 nishimura-takashi-yx@ynu.ac.jp
環境イノベーション マネジメント		竹田 陽子	045-339-3792 ytakeda@ynu.ac.jp
環境リスクマネジメント	生命環境マネジメント	小池 文人	045-339-4356 koikef@ynu.ac.jp
	セイフティマネジメント	小林 剛	045-339-3775 koba@ynu.ac.jp

目 次

I	はじめに	2 頁
II	平成 28 年度 10 月入学博士課程前期一般学生募集要項	3 頁
III	平成 28 年度 10 月入学博士課程前期社会人特別選抜学生募集要項	23 頁
IV	大学院設置基準第 14 条に定める教育方法の特例による 教育の実施について	28 頁
V	長期履修学生について	29 頁
VI	博士課程前期概要	31 頁
VII	博士課程学生への経済支援、教育研究支援制度について	43 頁
VIII	提出用書式集	45 頁

I はじめに

本冊子「平成28年度10月入学 横浜国立大学大学院 環境情報学府 博士課程前期 学生募集要項」には、平成28年10月に博士課程前期へ入学を希望するに必要な情報が書かれています。

募集には、「一般」、「社会人特別選抜」の2種類があります。「一般」に関する事項はⅡ章に書かれています。この章には、専攻に依らない共通事項が前半に、各専攻が個別に指定する事項が後半に記載されています。また、「社会人特別選抜」に関する事項はⅢ章に、社会人の就学に関する特例事項はⅣ章に、教育研究内容の概要はⅥ章に、出願手続きに必要なとなる書式集はⅧ章に記載されています。

入学を希望する人は本冊子を良く読んで自分に必要とされる情報を正確に取得し、間違いのないように出願手続を行なってください。

また、あらかじめ **必ず志望先指導教員とよく相談して** 願書を提出してください。志望先指導教員がわからない場合は、Ⅵ章の教育研究内容の概要を読むか、表紙裏面に示す各専攻・コース別問い合わせ教員へお問い合わせください。

志願者の入学試験成績及び出願書類等に記載された個人情報については、本学入学者選抜に係る用途の他、本人の申請に伴う入学料免除等の福利厚生関係の資料及び本学における諸調査・研究にも利用することがあります。調査・研究結果を発表する場合は個人が特定できないように処理します。それ以外の目的に個人情報が利用又は提供されることはありません。

安全保障輸出管理について

横浜国立大学では、「外国為替及び外国貿易法」に基づいて「国立大学法人横浜国立大学 安全保障輸出管理規則」を定めて、物品の輸出、技術の提供、人材の交流の観点から外国人留学生の受入れについては厳格な審査を実施しています。規制されている事項に該当する場合は、希望する研究活動に制限がかかる場合や、教育が受けられない場合がありますので、願書の提出の前に指導教員予定者と相談をするなど、出願にあたっては注意してください。

なお、詳細については以下の URL を参照してください。
http://www.ripo.ynu.ac.jp/index/adscreening_jp.html

II 平成28年度10月入学 博士課程前期 一般 学生募集要項

1. 出 願 資 格

次のいずれか一つに該当する者とする。

- (1) 学校教育法第83条に定める大学を卒業した者及び平成28年9月までに卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者及び平成28年9月までに学士の学位を取得見込みの者^[注1]
- (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者及び平成28年9月までに修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び平成28年9月までに修了見込の者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- (6) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (7) 文部科学大臣の指定した者
- (8) 平成28年3月31日において学校教育法第83条に定める大学に3年以上（休学期間を除く）在学した者であって、本学府の定める単位を優秀な成績で修得したと認めたもの^[注2、4]
- (9) 外国において学校教育における15年の課程を修了した者であって、本学府の定める単位を優秀な成績で修得したと認めたもの^[注5]
- (10) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了した者であって、本学府の定める単位を優秀な成績で修得したと認めたもの^[注5]
- (11) 学校教育法第102条第2項の規定により他の大学院に入学した者であって、本学府において、本学府の教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの^[注5]
- (12) 大学院において個別の入学資格審査により、大学を卒業したと同等以上の学力があると本学府が認めた者で、平成28年9月30日までに22歳に達するもの^[注3、5]

[注1] (2)における平成28年9月までに学士の学位を取得見込みの者とは、学位規則第6条第1項の規定に基づき大学評価・学位授与機構が定めている要件を満たすものと認定した短期大学および高等専門学校に置かれた専攻科修了見込みの者で、平成28年4月までに大学改革支援・学位授与機構に学位の授与を申請した者です。

[注2] (8)の対象となる者の要件は以下のa)とb)です。

- a) 平成28年3月末（3年次）の時点で、当該志願者の所属学科（あるいはこれに準ずる成績判定単位）における成績順位が上位5%以内であること、または、総修得単位の3/4以上が最上位の評価（点数評価の場合は満点の8割以上）であること
- b) 原則として、2年次修了までに必要な全ての必須科目に合格し、かつ、90単位以上を修得していること

[注3] (12)の対象となる者は、以下のとおりです。

- ①短期大学、高等専門学校、専修学校、各種学校の卒業者やその他の教育施設の修了者など、大学卒業資格を有していない者。
- ②大学卒業までに16年を要しない国の大学を卒業した者で、大学教育修了後、日本国内または外国の大学、国立大学共同利用機関等これに準ずる研究機関において、研究生、研究員等として1年以上研究に従事した者、または、平成28年9月30日までに1年以上研究に従事する見込みの者。

[注4] (8)によって、出願を希望する者は、事前審査を行うため、4頁の①～⑤を平成28年5月23日（月）から5月25日（水）までに本学大学院環境情報学府係に提出してください。また、郵送の場合は、平成28年5月25日（水）までに**書留郵便**で送付してください（**期間内必着**）。ただし、日本国内の発信日が平成28年5月24日（火）の場合は**書留速達**にして下さい。

- ①出願資格認定申請書（書式5）
- ②出願資格証明および推薦書（書式8）
- ③成績証明書
- ④当該大学の履修基準を示す書類あるいはその写し
- ⑤372円の切手を添付した住所（国内）、氏名、郵便番号を記入した長形3号の封筒

書式5および書式8は本要項綴じ込みの用紙を使用してください。

審査の結果については、平成28年6月3日（金）に返信用封筒で発送します。なお、平成28年6月3日（金）以降、本学大学院環境情報学府係にお問い合わせ頂ければお知らせします。受付時間は9時～12時45分および13時45分～16時です。

[注5] (9)～(12)によって、出願を希望する者は、事前審査を行うため、下記の①～⑥を平成28年5月23日（月）から5月25日（水）までに本学大学院環境情報学府係に提出してください。また、郵送の場合は、平成28年5月25日（水）までに書留郵便で送付してください（期間内必着）。ただし、日本国内の発信日が平成28年5月24日（火）の場合は書留速達にして下さい。

- ①出願資格認定申請書（書式5）
- ②出願資格認定調書（書式6）
- ③最終学歴の卒業証明書または在学期間証明書
- ④最終学歴の成績証明書
- ⑤研究経験および研究業績書〔様式は任意〕
- ⑥372円の切手を添付した住所（国内）、氏名、郵便番号を記入した長形3号の封筒

書式5は本要項綴じ込みの用紙を使用してください。書式6についてはⅧ章を参照してください。

審査の結果については、平成28年6月3日（金）に返信用封筒で発送します。なお、平成28年6月3日（金）以降、本学大学院環境情報学府係にお問い合わせ頂ければお知らせします。受付時間は9時～12時45分および13時45分～16時です。

2. 募 集 人 員

専 攻	コ ー ス	募 集 人 員
環境生命学	地球環境	若 干 名
	生命環境	
環境システム学	マテリアルシステム	若 干 名
	システムデザイン	
情報メディア環境学	情報メディア学	若 干 名
	環境数理解析学	
環境イノベーションマネジメント		若 干 名
環境リスクマネジメント	生命環境マネジメント	若 干 名
	セイフティマネジメント	
計		若 干 名

[注] 募集人員には、各専攻とも若干名の外国人留学生および若干名の社会人特別選抜による募集人員を含みます。

※あらかじめ志望先指導教員とよく相談してから願書を提出してください。志望先指導教員が分からない場合には、表紙裏面に示す各専攻・コース別問い合わせ教員へお問い合わせください。

3. 出 願 期 間

平成28年6月20日(月)から6月23日(木)まで、書留郵便による郵送受付

出願書類の受付は郵送のみで、窓口受付は行いません。郵送は**書留郵便**とし、本学府所定の封筒（志望専攻名を記入）を使用し、平成28年6月23日（木）までに、本学大学院環境情報学府係へ郵送してください。受付期限後到着のものは受理しませんので、郵便事情等を十分考慮して早目に送付してください。ただし、出願期間を過ぎて到着した出願書類のうち、平成28年6月22日（水）までの発信局消印のある**書留速達郵便**に限り受理します。

[注]土曜日、日曜日・休日は郵便業務を行わない郵便局があるので事前に確認してください。

4. 出 願 手 続

(1) 出願書類等

出願する人は、下記の書類に入学検定料を添えて本学府所定の封筒を使用し、志望専攻名を記入の上、本学大学院環境情報学府係に郵送してください。

日本語または英語以外の証明書については、日本語訳または英語訳を添付してください。

なお、書式1、書式3、書式4、書式10についてはⅧ章を参照してください。

出 願 書 類 等	注 意 事 項	書式 番号
入 学 願 書	用紙は本学府交付のものを使用してください。	1
卒 業（見込） 証 明 書	出身大学（在籍大学）作成のもの（出願資格（8）で出願する者は在学証明書）を提出してください。ただし、外国の大学を卒業するなど、やむを得ず卒業証書の写をもって代える場合は必ず卒業証書を事前に受付窓口に呈示してください。	—
成 績 証 明 書	出身大学（在籍大学）の学長または学部長が作成したものを提出してください。	—
写 真	縦4cm、横3cmのもの2枚（出願前3か月以内に撮影したもの）。写真は受験票および入学願書に貼付してください。上半身のみ脱帽した写真に限ります。	—
入 学 検 定 料	<p>払込金額：30,000円。 払込期間：出願期間に間に合うように払い込んでください。 払込方法</p> <p>① 海外在住の志願者及び日本国内居住の外国人留学生志願者 クレジットカード（VISA・MasterCard・JCB・American Express・MUFG・DC・UFJ・NICOS）・中国銀聯ネット決済により払い込むことができます。詳細は本学ホームページ（http://www.ynu.ac.jp/）「入試・入学」より、「大学院入学検定料のクレジットカードによる払込」をご覧ください。</p> <p>② 日本国内居住の日本人及び外国人留学生志願者 【郵便局・ゆうちょ銀行の場合】 ・本冊子綴じ込みの、本学所定の「払込書」を使用してください。（ATMから払い込むことはできません。必ず受付窓口で払い込んでください。） ・「払込書」の※に、入学志願者（本人）の住所・氏名・電話番号を黒又は青のボールペンで正確に記入してください。 ・「払込受領証」および「郵便振替払込受付証明書」を窓口から受け取る際には、必ず受付局日附印を確認してください。</p> <p>【コンビニエンスストアの場合】 ＊セブンイレブン、ローソン、ファミリーマート、サークルK・サンクスのみ ・店内にある情報端末機を利用して払い込みを行ってください。（ATMでは振り込みできません。必ずレジで払い込んでください。）操作の手順は別紙の案内書「入学検定料支払方法のご案内」を参照してください。</p>	10

	<p>[注1] 払込済みの「郵便振替払込受付証明書」、「収納証明書」、「支払い完了通知のメール画面を印刷したもの」を所定の貼付用紙(書式10)の欄に貼り付けて出願書類に同封してください。入学検定料が払い込まれていない場合や、それらが貼り付けていない場合は出願を受理しません。</p> <p>[注2] 各支払いに係る手数料は、入学志願者本人の負担となります。</p> <p>[注3] 日本政府(文部科学省)国費留学生は不要です(出願の際、必ず国費給与証明書を同封してください)。</p>	
返信用封筒 (2通)	長形3号の封筒に住所(国内)、氏名、郵便番号を記入の上、速達郵便料金の切手(372円)を貼付し、 2通 提出してください。	—
住所氏名記入用紙(シール)	用紙は本学府交付のもの。住所(国内)、氏名、郵便番号を記入してください。	—
在留カード等*	現在日本国に在住している外国人の志願者は、在留カードの写し(両面)を提出してください。 ※上記書類に必要な記載内容は氏名・生年月日・性別・現住所・国籍・在留カード番号・在留資格・在留期間です。 現在海外に在住している外国人の志願者は、パスポートの写しを提出してください。	—
履歴書*	用紙は本学府交付のものを使用してください。ただし、外国人(出願資格(1)は除きます)のみです。	3
研究(希望)計画書	これまでに行った研究の概要とこれから本学府で行いたい研究への抱負や研究(希望)計画を1,000字以内で記載したもの。	4
その他	推薦書があれば添付してください。	—

*印の書類は外国人のみ提出してください。

(2) 特別選抜の追加提出書類

特別選抜の受験希望者は上記の書類に加えて、以下の書類を提出してください。

出願書類等	注意事項	書式番号
志望理由書	教育研究分野を選んだ理由、現在までの学業との関係および入学後の研究計画をA4版用紙1頁にまとめたもの。氏名と共に、志望の専攻、コース、分野、および、教員氏名を記入してください。作成に際しては志望する分野の教員に問い合わせてください。	—
特別選抜資格証明書 特別選抜推薦書	成績順位の記述、または、総修得単位数に占める評価点が満点の8割以上の評価を得た単位数の割合の記述がある特別選抜資格証明書。用紙は本学府交付のものを使用し、厳封してください。ただし、本学府研究生として在籍している国費外国人留学生は不要です。【その他推薦状の添付は任意】	7-1 7-2
特別選抜入学確約書	用紙は本学府交付のものを使用してください。	9

(3) 提出書類の免除

出願資格(8)～(12)による出願予定者は、出願資格認定申請の際に既に提出した書類は、再提出を免除します。

5. 選 抜 方 法

選抜は**特別選抜**または**筆記試験等選抜**のいずれかによって行います。手順については8頁の図を参照してください。

特別選抜は第1志望のみですが、筆記試験等選抜では、第2志望を選ぶことができます。

(1) 試験方法の選択

学力検査のうち、特別選抜と筆記試験等選抜のいずれかを選択してください。

特別選抜を選択できる者は、次の①、②のいずれかに該当する者です。

- ① 大学出身者（高等専門学校専攻科含む）または卒業見込者で、出身大学内での**成績順位が上位1/3以内**または総修得単位数に占める**評価点が満点の8割以上の評価を得た単位数が1/2以上の者**
- ② 本学府研究生として在籍している**国費外国人留学生**（本学府研究生受入予定の日本語予備教育者含む）

(2) 受験資格の決定

出願時に提出した特別選抜と筆記試験等選抜の選択に基づき、出願書類によって受験資格を決定します。出願有資格者のうち、特別選抜の有資格者とならなかった人は筆記試験等選抜を受験することができます。なお、筆記試験等選抜を受験する場合は、TOEICまたはTOEFLいずれかのスコア証明書（コピー不可、原本のみ）が必要になりますので注意してください。筆記試験等選抜の試験区分は出願時に申請してください。

特別選抜受験資格の結果は、平成28年7月8日（金）に受験票とあわせて本人宛に発送します。

(3) 特別選抜

口述試験による学力検査、出願書類審査によって行います。なお、学力検査で不合格の判定を受けた人は筆記試験等選抜で受験することができます。筆記試験等選抜を受験する場合は、TOEICまたはTOEFLいずれかのスコア証明書（コピー不可、原本のみ）が必要になりますので注意してください。

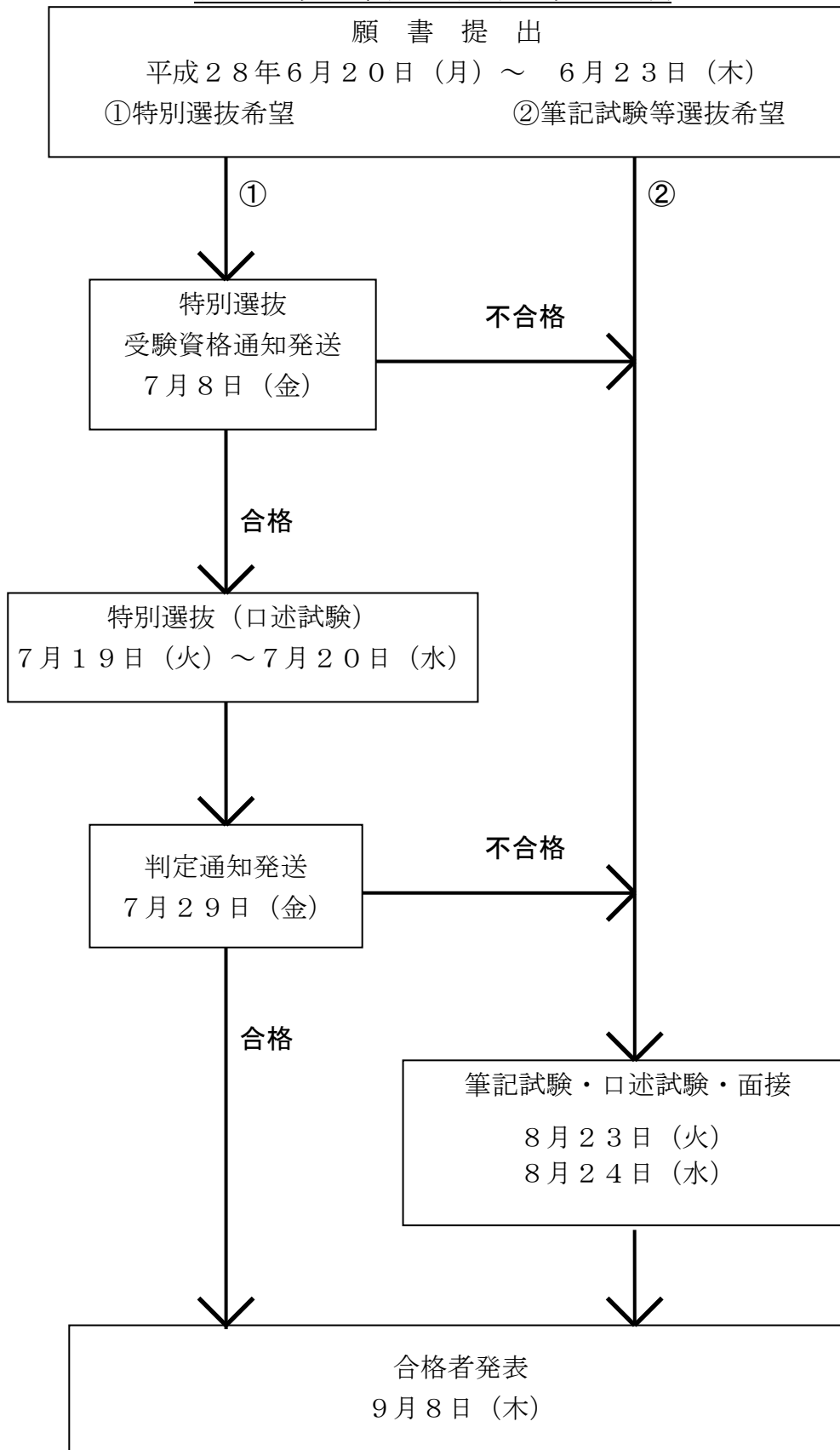
(4) 筆記試験等選抜

筆記試験または筆記試験・口述試験による学力検査、出願書類審査、面接によって行います。筆記試験等選抜における、環境情報学府の分野と選択可能な試験区分との関係は9頁の表を参照してください。

学力検査後、面接Ⅰがあります。

出願資格（8）による出願者でこの試験に合格した人は、3年次までの成績証明書を基に最終的な合否を決定します。

特別選抜と筆記試験等選抜の手順



6. 試験区分

筆記試験等選抜で受験するときは、**受験する試験区分を選択します。**

教育・研究内容が多岐にわたるため、環境イノベーションマネジメント専攻以外では、専攻またはコース内の指導教員を教育・研究内容に基づいて分野に分け、番号を付けています。分野によって選択できる試験区分が指定されています。

志望する分野が指定する試験区分の中から、1つ選んで志願時に申請してください。

申請した試験区分と異なる試験区分で受験することはできません。

試験区分が同じときは、第2志望を選ぶことができます。分野が指定する試験区分との関係は次の【分野と本学府の試験区分】の表で確認して第1志望1つと第2志望1つを出願時に申請してください。

分野と本学府の試験区分

			試験区分コードと試験区分						
			HA1	HB1	HB2	HC1	HC2	HE1	HF1
			環境生命学	環境システム学1	環境システム学2	情報数理	言語学	イノベーションマネジメント	環境リスクマネジメント
専攻	コース	分野							
環境生命学	地球環境、生命環境	1	○						
		2	○						
環境システム学	マテリアルシステム	1		○	○				
	システムデザイン	2			○				
情報メディア環境学	情報メディア学	1				○			
		2				○	○		
	環境数理解析学	3				○			
環境イノベーションマネジメント		1						○	
環境リスクマネジメント	生命環境マネジメント	1							○
	セイフティマネジメント	2							○

7. 検査科目の日時、場所

(1) 特別選抜の日程

平成28年7月19日(火)および7月20日(水)に実施します。口述試験日程や口述試験内容は専攻ごとに異なります。専攻ごとの口述試験案内を参照してください。

日時・場所は平成28年7月8日(金)14時ごろ環境情報学府掲示板に掲示するとともに本人宛に発送します。

(2) 筆記試験等選抜の日程

学力検査は平成28年8月23日(火)から8月24日(水)までに実施します。学力検査日程や学力検査内容は専攻ごとに異なります。専攻ごとの学力検査案内を参照してください。

筆記試験、口述試験、面接の場所および口述試験や面接の日程等は平成28年8月5日(金)14時ごろ環境情報学府掲示板に掲示すると共に本人宛に発送します。

8. 合格者発表

平成28年9月8日(木)16時ごろ

合格者本人には郵便で通知します。また、大学ホームページに合格者受験番号を掲載します。
(<http://www.eis.ynu.ac.jp/index.html>) なお、電話による照会には応じません。

9. 入学時に必要な経費

(1) 入学料 282,000円(現行)

(2) 授業料 半期分 267,900円(年額 535,800円)(現行)

[注1] (1)を、入学手続期間：平成28年9月12日(月)～16日(金)に納入してください。詳細は、入学手続書類と一緒に送付します。

[注2] 入学料および授業料は、改定される場合があります。

[注3] 在学中に授業料の改定が行われた場合には、新授業料が適用されます。

10. 注意事項

- (1) 口述試験(特別選抜)、筆記試験・口述試験・面接(筆記試験等選抜)には必ず受験票を携帯してください。
- (2) 出願手続後の提出した書類の内容変更は認めません。
- (3) 出願書類の記載事項に記入もれやその他の不備がある場合は、出願書類は受理しません。
- (4) 出願書類に虚偽の記載があった場合、入学後でも入学を取り消すことがあります。
- (5) 一度納入した入学検定料および提出した書類は、いかなる理由があっても一切返付しません。検定料の返還請求ができる場合は、「出願をしなかった」または、「検定料を二重に払い込んだ」場合です。返還請求方法は、返還請求願・返還請求理由書・「検定料支払・払込証明書」が必要です。大学院環境情報学府係へ問い合わせください。
- (6) 官公庁または会社等に在職している者は、入学手続の際、その長または代表者の就学承認書(様式任意)を必要としますので、あらかじめ用意してください。
- (7) 入学試験に関する問い合わせは、返信用封筒(住所、氏名を明記し、82円切手を貼付)または返信用はがきを同封し、本学大学院環境情報学府係あてに照会してください。ただし、掲示内容に関する問い合わせには応じません。
- (8) 各専攻から課された**学科試験を1科目でも受験しなかった場合は、不合格**となりますので注意してください。
- (9) 過去の入学試験問題(筆記試験の問題のみ)の閲覧は、本学理工学系研究図書館において行うことができます。(入学試験問題はコピー可、ただし身分証明書が必要)理工学系研究図書館の開館日等は本学ホームページ(<http://www.lib.ynu.ac.jp/guide/calendar.html>)で確認してください。なお、理工学系研究図書館が平日で休館の場合は、大学院環境情報学府係で行うことができます。閲覧時間は、10:00～16:30(お昼休み12:45～13:45を除く)となります。(8月中旬の平日の2日間、大学院環境情報学府係の窓口が休業になる予定ですので、その頃に来学される場合は、事前にお問い合わせください。
- (10) 入学手続後は、どのような事情があっても、入学料の払い戻しはしません。
- (11) 在留資格「留学」を取得するに当たっては、留学生生活を維持できる経済的基盤を有している必要があります。
- (12) 身体に障害のある入学者の事前相談について
次表に該当する者(出願受付締切後の不慮の事故による負傷者等を含む)は、受験及び修学の上で配慮を必要とすることが起こり得ますので、出願する前に必ず大学院環境情報学府係へ次の様式により事前に相談してください。
なお、次表から判断できない場合については、問い合わせてください。

区 分	身 体 障 害 の 程 度
視 覚 障 害	両眼の視力がおおむね 0.3 未満のもの又は視力以外の視機能障害が高度のもののうち、拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が不可能又は著しく困難な程度のもの
聴 覚 障 害	両耳の聴力レベルがおおむね 60 デシベル以上のもので、補聴器等の使用によっても通常の和声を解することが不可能又は著しく困難な程度のもの
肢 体 不 自 由	1. 肢体不自由の状態が補装具の使用によっても歩行、筆記等日常生活における基本的な動作が不可能又は困難な程度のもの 2. 肢体不自由の状態が前号にかかげる程度に達しないものうち、常時の医学的観察指導を必要とする程度のもの
病 弱	1. 慢性の呼吸器疾患、腎臓疾患及び神経疾患、悪性新生物その他の疾患の状態が継続して医療又は生活規制を必要とする程度のもの 2. 身体虚弱の状態が継続して生活規則を必要とする程度のもの

(様式) A4 判縦

平成 年 月 日

横浜国立大学長 殿

ふりがな
氏 名
生年月日
住 所 〒
電話番号

横浜国立大学に入学を志願したいので、下記のとおり事前に相談します。

記

1. 志望する学府・専攻・コース
2. 身体の障害の種類、程度
3. 受験に際して配慮を希望する事項
4. 入学後の修学に際して配慮を希望する事項
5. そ の 他

(添付書類) 診断書または身体障害者手帳 (写)、その他参考資料

1 1. 環境生命学専攻の学力検査日程と学力検査内容

(1) 特別選抜

1. 日 時

期 日	試 験 科 目	時 間
7月19日(火) ～7月20日(水)	口 述 試 験	10時00分～

2. 検査科目

試 験 科 目	出 題 内 容 等
口 述 試 験	英語、基礎科目、専門科目に関する事項

(2) 筆記試験等選抜

1. 日 時

期 日	試 験 科 目	時 間
8月23日(火)	外 国 語	
	学 科 試 験 I	9時30分～11時30分
	学 科 試 験 II	13時00分～
8月24日(水)	面 接 I	14時00分～

- ・外国語の試験はTOEICまたはTOEFLのスコアを利用して実施します。
- ・学科試験 I は筆記試験です。
- ・学科試験 II は口述試験です。

[受験に際しての指示事項]

- ・筆記試験の受験者は試験開始20分前に試験室に入ってください。
- ・学科試験 I および学科試験 II の解答に英語を使うことを認めます。

2. 分野と指導教員および分野が指定する試験区分

志望する指導教員が属する分野が指定する試験区分を選択しなければなりません。

コース	分野	指導教員	指定の試験区分 (試験区分コード)
地球環境	1	菊池知彦、間嶋隆一 石川正弘、酒井暁子 下出信次、森 章 和仁良二、中森泰三 小平秀一 (連携) * 山本伸次、佐々木雄大	環境生命学 (HA1)
生命環境	2	雨宮 隆、大谷裕之 平塚和之、松本真哉 尾形信一、中村達夫 本田 清 塗谷睦生 (連携) *	環境生命学 (HA1)

*連携教員を志望先指導教員として希望する場合は予め、表紙裏面の専攻・コース別問い合わせ教員に相談して下さい。

3. 試験区分

◎試験区分：環境生命学（試験区分コード：HA1）

試験科目	出題内容等（配点）
外国語	<p>英語（100点）</p> <p>英語の試験は、TOEICまたはTOEFLのスコア証明書を提出すること。</p> <p>学科試験当日の学科試験Ⅰの試験開始時にスコアのうちベストの成績証明書またはスコアシート（コピー不可、原本のみ）を提出すること。なお、提出可能な成績証明書・スコアシートは入学試験日（学科試験当日）から起算して<u>2年以内</u>のものとする。これらの提出がない場合は外国語の試験の点数を0点と見なす。</p> <p>TOEICとTOEFLの得点の換算に関しては、22ページを参照のこと。</p>
学科試験Ⅰ	志望先指導教員が指定する領域の試験問題（小論文、総合問題または専門基礎科目）を必ず選択すること（200点）
学科試験Ⅱ	希望する研究分野に関する口述試験（200点）

[受験上の注意]

- ・学科試験Ⅰ、学科試験Ⅱでは、プログラム機能を持たない関数電卓を持参し使用することができます。

12. 環境システム学専攻の学力検査日程と学力検査内容

(1) 特別選抜

1. 日時

期 日	試 験 科 目	時 間
7月19日(火) ～7月20日(水)	口 述 試 験	10時00分～

2. 検査科目

試 験 科 目	出 題 内 容 等
口 述 試 験	英語、基礎科目、専門科目に関する事項

(2) 筆記試験等選抜

1. 日時

期 日	試 験 科 目	時 間
8月23日(火)	外 国 語	
	学 科 試 験 I	9時30分～11時30分
	学 科 試 験 II	13時00分～
8月24日(水)	面 接 I	14時00分～

- ・外国語の試験はTOEICまたはTOEFLのスコアを利用して実施します。
- ・学科試験 I は筆記試験です。
- ・学科試験 II は口述試験です。

[受験に際しての指示事項]

- ・筆記試験の受験者は試験開始20分前に試験室に入ってください。
- ・学科試験 I および学科試験 II の解答に英語を使うことを認めます。

2. 分野と指導教員および分野が指定する試験区分

志望する分野が指定する試験区分を選択しなければなりません。**なお、試験区分の選択に際しては、あらかじめ志望先指導教員とよく相談する必要があります。**

コース	分野	指導教員	指定の試験区分 (試験区分コード)
システム マテリアル	1	鈴木淳史、跡部真人 多々見純一、荒牧賢治 田中良巳、伊藤暁彦 飯島志行	環境システム学1 (HB1) 環境システム学2 (HB2)
デザイン システム	2	森下 信、上野誠也 山田貴博、村井基彦 中野 健、白石俊彦 松井和己、樋口丈浩	環境システム学2 (HB2)

3. 試験区分

分野が指定する試験区分をいずれか1つ選んでください。

◎試験区分：環境システム学1（試験区分コード：HB1）

試験科目	出題内容等（配点）
外国語	英語（100点） 英語の試験は、TOEICまたはTOEFLのスコア証明書を提出すること。 学科試験当日の学科試験Ⅰの試験開始時にスコアのうちベストの成績証明書またはスコアシート（コピー不可、原本のみ）を提出すること。なお、提出可能な成績証明書・スコアシートは入学試験日（学科試験当日）から起算して <u>2年以内</u> のものとする。これらの提出がない場合は外国語の試験の点数を0点と見なす。 TOEICとTOEFLの得点の換算に関しては、22ページを参照のこと。
学科試験Ⅰ	数学（2題）、物理化学（1題）、有機化学（1題）、無機化学（1題）、力学（1題）、熱学・統計力学（1題）、金属材料学（1題）の合計8題の中から4題を選択。ただし数学1題を含む。（200点）
学科試験Ⅱ	口述試験（200点）

[受験上の注意]

- ・電卓を持ち込むことはできません。

◎試験区分：環境システム学2（試験区分コード：HB2）

試験科目	出題内容等（配点）
外国語	英語（100点） 英語の試験は、TOEICまたはTOEFLのスコア証明書を提出すること。 学科試験当日の学科試験Ⅰの試験開始時にスコアのうちベストの成績証明書またはスコアシート（コピー不可、原本のみ）を提出すること。なお、提出可能な成績証明書・スコアシートは入学試験日（学科試験当日）から起算して <u>2年以内</u> のものとする。これらの提出がない場合は外国語の試験の点数を0点と見なす。 TOEICとTOEFLの得点の換算に関しては、22ページを参照のこと。
学科試験Ⅰ	数学（2題）、材料力学（1題）、工業力学（1題）、機械力学（1題）、流体力学（1題）、熱力学・統計力学（1題）、制御工学（1題）の合計8題の中から4題を選択。ただし数学1題を含む（200点）
学科試験Ⅱ	口述試験（200点）

[受験上の注意]

- ・電卓を持ち込むことはできません。

13. 情報メディア環境学専攻の学力検査日程と学力検査内容

(1) 特別選抜

1. 日時

期 日	試 験 科 目	時 間
7月19日(火) ～7月20日(水)	口 述 試 験	10時00分～

2. 検査科目

試 験 科 目	出 題 内 容 等
口 述 試 験	英語、基礎科目、専門科目に関する事項

(2) 筆記試験等選抜

1. 日時

期 日	試 験 科 目	時 間
8月23日(火)	外 国 語	
	学 科 試 験 I	9時30分～11時30分
	学 科 試 験 II	13時00分～
8月24日(水)	学 科 試 験 II	10時00分～
	面 接 I	14時00分～

* 学科試験Ⅱは、通常、8月23日(火)に行いますが、志願者が多数の時は口述試験を8月23日(火)と24日(水)の両日で行います。

- ・外国語の試験はTOEICまたはTOEFLのスコアを利用して実施します。
- ・学科試験Ⅰは筆記試験です。
- ・学科試験Ⅱは口述試験です。

[受験に際しての指示事項]

- ・筆記試験の受験者は試験開始20分前に試験室に入ってください。
- ・学科試験Ⅰおよび学科試験Ⅱの解答に英語を使うことを認めます。

2. 分野と指導教員および分野が指定する試験区分

特別選抜の検査科目の選択に際しては、VI博士課程前期概要の担当教員の研究内容を参考にして、表から志望の分野を選んでください。さらに、分野が指定する試験区分の中から受験する試験区分を選んでください。

コース	分野	指導教員	指定の試験区分(試験区分コード)
情報 メ デ ィ ア 学	1	岡嶋克典、後藤敏行 四方順司、白川真一 田村直良、富井尚志 長尾智晴、松本 勉 森 辰則、吉岡克成	情報数理 (HC1)
	2	マーティン・ロジャー 藤井友比呂	情報数理 (HC1) 言語学 (HC2)

環境 数理 解析 学	3	有光直子、牛越恵里佳 大石 彰、白崎 実 中本敦浩、西村尚史 額田順二、根上生也 野間 淳、原下秀士	情報数理 (HC 1)
---------------------	---	--	-------------

3. 試験区分

◎試験区分：情報数理（試験区分コード：HC 1）

試験科目	出題内容等（配点）
外国語	英語（100点） 英語の試験は、TOEICまたはTOEFLのスコア証明書を提出すること。 学科試験当日の学科試験Ⅰの試験開始時にスコアのうちベストの成績証明書またはスコアシート（コピー不可、原本のみ）を提出すること。なお、提出可能な成績証明書・スコアシートは入学試験日（学科試験当日）から起算して <u>2年以内</u> のものとする。これらの提出がない場合は外国語の試験の点数を0点と見なす。 TOEICとTOEFLの得点の換算に関しては、22ページを参照のこと。
学科試験Ⅰ	アルゴリズム、メディア情報処理（情報理論）、計算機システム、微分積分学、線形代数学、数学専門より3題解答（300点）
学科試験Ⅱ	関連分野に関する口述試験（100点）

[受験上の注意]

- ・学科試験Ⅰに限り語学の辞書を使用することができますが、電子辞書は使用できません。
- ・電卓を持ち込むことはできません。

◎試験区分：言語学（試験区分コード：HC 2）

試験科目	出題内容等（配点）
外国語	英語（100点） 英語の試験は、TOEICまたはTOEFLのスコア証明書を提出すること。 学科試験当日の学科試験Ⅰの試験開始時にスコアのうちベストの成績証明書またはスコアシート（コピー不可、原本のみ）を提出すること。なお、提出可能な成績証明書・スコアシートは入学試験日（学科試験当日）から起算して <u>2年以内</u> のものとする。これらの提出がない場合は外国語の試験の点数を0点と見なす。 TOEICとTOEFLの得点の換算に関しては、22ページを参照のこと。
学科試験Ⅰ	「生成文法理論」、「統語理論」、「形態と意味」3題から2題解答（300点）
学科試験Ⅱ	志望する分野に関する口述試験（100点）

[受験上の注意]

- ・学科試験Ⅰに限り語学の辞書を使用することができますが、電子辞書は使用できません。
- ・電卓を持ち込むことはできません。

14. 環境イノベーションマネジメント専攻の学力検査日程と学力検査内容

(1) 特別選抜

1. 日 時

期 日	試 験 科 目	時 間
7月19日(火) ～7月20日(水)	口 述 試 験	10時00分～

2. 検査科目

試 験 科 目	出 題 内 容 等
口 述 試 験	英語、基礎科目、専門科目に関する事項

(2) 筆記試験等選抜

1. 日 時

期 日	試 験 科 目	時 間
8月23日(火)	外 国 語	
	学 科 試 験 I	9時30分～11時30分
	学科試験Ⅱ・面接Ⅰ	13時00分～

- ・外国語の試験はTOEICまたはTOEFLのスコアを利用して実施します。
- ・学科試験Ⅰは筆記試験です。
- ・学科試験Ⅱは口述試験です。

[受験に際しての指示事項]

- ・筆記試験の受験者は試験開始20分前に試験室に入ってください。
- ・学科試験Ⅰの解答に英語を使うことを認めます。

2. 指導教員および指定する試験区分

指導教員	指定の試験区分(試験区分コード)
志田基与師 周佐 喜和 竹田 陽子 本藤 祐樹 長谷部英一 宮崎 隆 安藤 孝敏 安本 雅典 鳴海 大典 遠藤 聡 萩原一平(連携)* 吉村哲哉(連携)* 工藤祐揮(連携)*	イノベーションマネジメント (HE1)

*連携教員を志望指導教員として希望する場合は予め、表紙裏面の専攻・コース別問い合わせ教員に相談して下さい。

3. 試験区分

◎試験区分：イノベーションマネジメント（試験区分コード：HE1）

試験科目	出題内容等（配点）
外国語	英語（100点） 英語の試験は、TOEICまたはTOEFLのスコア証明書を提出すること。 学科試験当日の学科試験Ⅰの試験開始時にスコアのうちベストの成績証明書またはスコアシート（コピー不可、原本のみ）を提出すること。なお、提出可能な成績証明書・スコアシートは入学試験日（学科試験当日）から起算して <u>2年以内</u> のものとする。これらの提出がない場合は外国語の試験の点数を0点と見なす。 TOEICとTOEFLの得点の換算に関しては、22ページを参照のこと。
学科試験Ⅰ	環境マネジメント、経済学、経営学、社会と人間活動の4分野から1分野を選択・解答（200点）
学科試験Ⅱ	希望する教育研究分野に関する基本事項、研究（希望）計画に関する事項の口述試験（200点）

[受験上の注意]

- ・学科試験Ⅰのみ語学の辞書を使用することができますが、電子辞書は使用できません。
- ・電卓を持ち込むことはできません。

15. 環境リスクマネジメント専攻の学力検査日程と学力検査内容

(1) 特別選抜

1. 日時

期 日	試 験 科 目	時 間
7月19日(火) ～7月20日(水)	口 述 試 験	10時00分～

2. 検査科目

試 験 科 目	出 題 内 容 等
口 述 試 験	英語、基礎科目、専門科目に関する事項

(2) 筆記試験等選抜

1. 日時

期 日	試 験 科 目	時 間
8月23日(火)	外 国 語	
	学 科 試 験 I	9時30分～11時30分
	学 科 試 験 II	13時00分～15時00分
	面 接 I	16時00分～

- ・外国語の試験はTOEICまたはTOEFLのスコアを利用して実施します。
- ・学科試験 I、学科試験 II は筆記試験です。

[受験に際しての指示事項]

- ・筆記試験の受験者は試験開始20分前に試験室に入ってください。
- ・学科試験 I および学科試験 II の解答に英語を使うことを認めます。

2. 分野と指導教員および分野が指定する試験区分

コース	分野	指導教員	指定の試験区分(試験区分コード)
マ ネ ジ メ ン ト 生 命 環 境	1	及川敬貴、大矢 勝 金子信博、亀屋隆志 小池文人、中井里史 益永茂樹、松田裕之 竹田宜人(連携)* 倉持秀敏(連携)*	環境リスクマネジメント(HF1)
マ ネ ジ メ ン ト セ イ フ テ ィ	2	大谷英雄、岡 泰資 笠井尚哉、熊崎美枝子 小林 剛、澁谷忠弘 野口和彦、松宮正彦 三宅淳巳 畑山 健(連携)*	環境リスクマネジメント(HF1)

*連携教員を志望指導教員として希望する場合は予め、表紙裏面の専攻・コース別問い合わせ教員に相談して下さい。

3. 試験区分

◎試験区分：環境リスクマネジメント（試験区分コード：HF 1）

試験科目	出題内容等(配点)
外国語	<p>英語（100点）</p> <p>英語の試験は、TOEICまたはTOEFLのスコア証明書を提出すること。</p> <p>学科試験当日の学科試験Ⅰの試験開始時にスコアのうちベストの成績証明書またはスコアシート（コピー不可、原本のみ）を提出すること。なお、提出可能な成績証明書・スコアシートは入学試験日（学科試験当日）から起算して<u>2年以内</u>のものとする。これらの提出がない場合は外国語の試験の点数を0点と見なす。</p> <p>TOEICとTOEFLの得点の換算に関しては、22ページを参照のこと。</p>
学科試験Ⅰ	<p>数学・力学系科目（①線形代数学、②微分方程式、③基礎統計学、④材料力学）</p> <p>化学・工学系科目（⑤物理化学、⑥無機化学／分析化学、⑦有機化学／生化学 ⑧安全工学、⑨環境工学、⑩化学工学）</p> <p>生物・生態学系科目（⑪基礎生物学、⑫基礎生態学、⑬生物分類地理学／系統進化学⑭保全生態学）</p> <p>社会・計画系科目（⑮法学基礎、⑯環境政策論、⑰環境保健学）</p> <p>の合計17題のうちから3題を選択（200点）</p>
学科試験Ⅱ	<p>環境管理制度、化学物質・生態系リスク、産業安全など、生命環境マネジメントやセイフティマネジメントに関連した小論文形式の問題数題から2題を選択（200点）</p>

[受験上の注意]

- ・学科試験Ⅰ、学科試験Ⅱでは、プログラム機能を持たない関数電卓を持参し使用することができます。

16. TOEIC、TOEFL のスコア利用について

[TOEIC、TOEFLスコアについて]

- ・利用対象となる試験及び提出する成績証明書またはスコアシート（以下、スコア証明書という。）は下表のとおりです。

対象となる試験	提出するスコア証明書
TOEIC公開テスト	Official Score Certificate（公式認定証）
TOEFL -iBT TOEFL -PBT	Examinee Score Report（受験者用控えスコア票）

※ TOEIC-IP 及びTOEFL-ITPなどの団体受験制度、TOEIC Bridge、TOEIC SWのスコア証明書は認められません。

- ・受験生は、いずれかのスコア証明書（コピー不可、原本のみ）を、入学試験日（学科試験当日）に持参し、学科試験Ⅰの試験開始時に提出して下さい。スコア証明書は、入学試験日（学科試験当日）から起算して2年以内のものを提出して下さい。複数の試験を受験した場合は、合計得点の最も高いものを提出して下さい。
- ・TOEICのスコアは、下記の関係を用いて100点満点に換算し外国語（英語）の点数とします。

換算方法（TOEICベース）

TOEIC	換算方法	外国語（英語）
～ 349点以下	0	0点
350点 ～ 500点	$(\text{TOEIC} - 350) / 3$	0点～50点
500点 ～ 800点	$(\text{TOEIC} - 500) / 6 + 50$	50点～100点
801点以上～		100点

- ・TOEFLの得点の換算に関しては、以下の方法によりTOEICの得点に換算します。
 - ▶ TOEFL -iBTの得点は、下記の換算表によりTOEFL-PBTの得点に換算する。
 - ▶ TOEFL -PBTの得点は、 $(\text{TOEFL-PBT得点} - 296) \div 0.348 = \text{TOEICの得点}$ に換算する。
- ※小数点以下の得点は四捨五入する。

TOEFL-iBTとTOEFL-PBTの得点換算表（ETSのホームページより抜粋）

iBT	PBT	iBT	PBT	iBT	PBT	iBT	PBT	iBT	PBT
120	673-677	101-102	607-610	77-78	547	58	493	41-42	437-440
119	670	100	600-603	76	540-543	57	487-490	40	433
118	667	98-99	597	74-75	537	56	483	39	430
117	660-663	96-97	590-593	72-73	533	54-55	480	38	423-427
116	657	94-95	587	71	527-530	53	477	36-37	420
114-115	650-653	92-93	580-583	69-70	523	52	470-473	35	417
113	647	90-91	577	68	520	51	467	34	410-413
111-112	640-643	88-89	570-573	66-67	517	49-50	463	33	407
110	637	86-87	567	65	513	48	460	32	400-403
109	630-633	84-85	563	64	507-510	47	457	30-31	397
106-108	623-627	83	557-560	62-63	503	45-46	450-453	29	390-393
105	617-620	81-82	553	61	500	44	447	28	387
103-104	613	79-80	550	59-60	497	43	443	26-27	380-383

Ⅲ 平成28年度10月入学 博士課程前期 社会人特別選抜 学生募集要項

1. 趣 旨

本学府においては、社会人の継続研修および再教育の場を提供するとともに、それを橋渡しとして、大学と産業界との交流を深め、新しい学問と技術の発展に寄与することを目的として、その門戸を社会に向けて開放しています。その一環として、社会人の勉学を容易にするために、社会人を対象として大学院設置基準第14条に定める特例（IV章を参照）による教育を実施するとともに、ここに掲げる特別選抜制度を実施して社会人の就学の便を図っています。

また、長期履修を希望する社会人に対し、授業料の便宜を図る長期履修学生制度（V章を参照）を設けています。

2. 出 願 資 格

次の（A）、（B）、（C）のいずれかに該当する者で、かつ（1）、（2）とも満たす者

- （A）官公庁、会社、非営利団体等に正規職員として1年以上勤務し、平成28年9月30日に在職期間が1年以上となり、かつ、入学後も同一職場内での身分を有する者
- （B）官公庁、会社、非営利団体等から推薦を受けて派遣され、かつ、入学後も同一職場内での身分を有する者
- （C）その他、本学府が社会人として認めた者^[注1]

- （1）3頁「1. 出願資格」の（1）～（12）により、学士の学位を有する者（平成28年9月までに取得見込みの者）または本学府が認めた者^[注2]
- （2）学部教育として、志望の専攻と関連系統の専門教育を受けている者

◎ 社会人特別選抜として出願する者は、出願資格審査があります。

下記の①～④を平成28年5月23日(月)から5月25日(水)までに本学大学院環境情報学府係に提出してください。また、郵送の場合は、平成28年5月25日(水)までに書留郵便で送付してください（**期間内必着**）。ただし、日本国内発信日が平成28年5月24日(火)の場合は、**書留速達**にして下さい。

- ①出願資格認定申請書（書式5）
- ②履歴書（様式は任意）
- ③推薦書（ただし、上記出願資格（B）に該当する者のみ）
- ④372円切手(速達料金を含む)を貼付した住所（日本国内）および氏名明記の返信用封筒（長3）

なお、書式5についてはVIII章を参照してください。

審査の結果については、平成28年6月3日(金)に返信用封筒で発送します。

また、平成28年6月3日(金)以降、本学大学院環境情報学府係にお問い合わせ頂ければお知らせします。受付時間は9時～12時45分および13時45分～16時です。

[注1] 詳細については、表紙裏面の専攻・コース別問い合わせ教員にお問い合わせください。

[注2] 3頁「1. 出願資格」の（8）～（12）で出願を希望する者は事前審査が必要です。
3～4ページの[注4] または[注5] に従って、必要な書類を提出してください。

3. 募集人員

専攻	コース	募集人員
環境生命学	地球環境	若干名
	生命環境	
環境システム学	マテリアルシステム	若干名
	システムデザイン	
情報メディア環境学	情報メディア学	若干名
	環境数理解析学	
環境イノベーションマネジメント		若干名
環境リスクマネジメント	生命環境マネジメント	若干名
	セイフティマネジメント	

[備考] **あらかじめ志望先指導教員とよく相談してから願書を提出してください。**志望先指導教員がわからない場合には、表紙裏面に示す各専攻・コース別問い合わせ教員へお問い合わせください。

4. 出願期間

平成28年6月20日(月)から6月23日(木)まで、書留郵便による郵送受付

(事前審査を受けてから出願をお願いします。前頁参照のこと。)

出願書類の受付は郵送のみで、窓口受付は行いません。郵送は**書留郵便**とし、本学府所定の封筒(志望専攻名を記入)を使用し、平成28年6月23日(木)までに、本学大学院環境情報学府係へ郵送してください。**受付期限後到着のものは受理しません**ので、郵便事情等を十分考慮して早目に送付してください。ただし、出願期間を過ぎて到着した出願書類のうち、平成28年6月22日(水)までの発信局消印のある**書留速達郵便**に限り受理します。

[注]土曜日、日曜日・休日は郵便業務を行わない郵便局があるので事前に確認してください。

5. 出願手続

(1) 出願書類等

出願する人は、下記の書類に入学検定料を添えて本学府所定の封筒を使用し、志望専攻名を記入の上、本学大学院環境情報学府係に提出してください。

日本語または英語以外の証明書については、日本語訳または英語訳を添付してください。

なお、書式2、書式3、書式4、書式10についてはⅧ章を参照してください。

出願書類等	注意事項	書式番号
入学願書	用紙は本学府交付のものを使用してください。(社会人特別選抜用を使用のこと)	2
卒業証明書	出身大学作成のものを提出してください。(出願資格(8)で出願した者は除く) 外国の大学を卒業するなど、やむをえず卒業証書の写しをもって代える場合は、必ず卒業証書を事前に受付窓口に呈示してください。	—
成績証明書	出身大学(在籍大学)の学長または学部長が作成したものを提出してください。	—
写真	縦4cm、横3cmのもの2枚(出願前3か月以内に撮影したもの)。写真は受験票および入学願書に貼付してください。上半身のみ脱帽した写真に限ります。	—

入学検定料	<p>払込金額：30,000円。 払込期間：出願期間に間に合うように払い込んでください。 払込方法</p> <p>① 海外在住の志願者及び日本国内居住の外国人留学生志願者 クレジットカード (VISA・MasterCard・JCB・American Express・MUFG・DC・UFJ・NICOS) ・中国銀聯ネット決済により払い込むことができます。詳細は本学ホームページ (http://www.ynu.ac.jp/) 「入試・入学」より、「大学院入学検定料のクレジットカードによる払込」をご覧ください。</p> <p>② 日本国内居住の日本人及び外国人留学生志願者 【郵便局・ゆうちょ銀行の場合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本冊子綴じ込みの、本学所定の「払込書」を使用してください。(ATMから払い込むことはできません。必ず受付窓口で払い込んでください。) ・「払込書」の※に、入学志願者(本人)の住所・氏名・電話番号を黒又は青のボールペンで正確に記入してください。 ・「払込受領証」および「郵便振替払込受付証明書」を窓口から受け取る際には、必ず受付局日附印を確認してください。 <p>【コンビニエンスストアの場合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・*セブンイレブン、ローソン、ファミリーマート、サークルK・サンクスのみ ・店内にある情報端末機を利用して払い込みを行ってください。(ATMでは振り込みできません。必ずレジで払い込んでください。)操作の手順は別紙の案内書「入学検定料支払方法のご案内」を参照してください。 <p>[注1] 払込済みの「郵便振替払込受付証明書」、「収納証明書」、「支払い完了通知のメール画面を印刷したもの」を所定の貼付用紙(書式10)の欄に貼り付けて出願書類に同封してください。入学検定料が払い込まれていない場合や、それらが貼り付けていない場合は出願を受理しません。</p> <p>[注2] 各支払いに係る手数料は、入学志願者本人の負担となります。</p>	10
返信用封筒 (2通)	本学府交付の長形3号の封筒に住所(国内)、氏名、郵便番号を記入の上、速達郵便料金の切手(372円)を貼付し、 2通 提出してください。	—
住所氏名記入用紙(シール)	用紙は本学府交付のもの。住所(国内)、氏名、郵便番号を記入してください。	—
研究(希望)計画書	これまでに行った研究の概要とこれから本学府で行いたい研究への抱負や研究(希望)計画を1,000字以内で記載したもの。	4
業績報告書	卒業論文または研究論文を有する者のみ、業績概要を添付してください。また、現在および過去にたずさわった研究・職務について、その内容を詳しく記入してください。(様式は任意)	—
在留カード等*	現在日本国に在住している外国人の志願者は、在留カードの写し(両面)を提出してください。 ※上記書類に必要な記載内容は氏名・生年月日・性別・現住所・国籍・在留カード番号・在留資格・在留期間です。 現在海外に在住している外国人の志願者は、パスポートの写しを提出してください。	—
履歴書*	用紙は本学府交付のものを使用してください。外国人のみ提出してください。	3
その他	推薦書があれば添付してください。	—

*印の書類は外国人のみ提出してください。

(2) 提出書類の免除

出願資格認定申請の際に既に提出した書類は、再提出を免除します。

6. 選 抜 の 方 法

社会人特別選抜は、次の方法により行います。

(1) 入学者の選抜は、口述試験、出願書類審査によって行います。

(2) 口述試験は上記出願書類について行い、専攻科目、研究業績、研究（希望）計画等に関して行います。

7. 選抜日時および場所

(1) 口 述 試 験 日：**平成28年8月23日(火)**または**8月24日(水)**。

(各コースで指示するいずれかの日に実施します。)

(2) 口述試験の場所

および日程等：平成28年8月5日（金）14時ごろ本学環境情報学府掲示板に掲示すると共に本人宛に発送します。

8. 合 格 者 発 表

平成28年9月8日(木)16時ごろ

合格者本人には、郵便で通知します。また、大学ホームページに合格者受験番号を掲載します。

(<http://www.eis.ynu.ac.jp/index.html>) なお、電話による照会には応じません。

9. 入学時に必要な経費

(1) 入学料 282,000円（現行）

(2) 授業料 半期分 267,900円（年額 535,800円）（現行）

[注1] (1)を、入学手続期間：**平成28年9月12日(月)～16日(金)**に納入してください。詳細は、入学手続書類と一緒に送付します。

[注2] 入学料および授業料は、改定される場合があります。

[注3] 在学中に授業料の改定が行われた場合には、新授業料が適用されます。

10. 注 意 事 項

(1) 口述試験には必ず受験票を携帯してください。

(2) 出願手続後の提出した書類の内容変更は認めません。

(3) 出願書類の記載事項に記入もれやその他の不備がある場合は、出願書類は受理しません。

(4) 出願書類に虚偽の記載があった場合は、入学後でも入学を取り消すことがあります。

(5) 一度納入した入学検定料および提出した書類は、いかなる理由があっても一切返付しません。検定料の返還請求ができる場合は、「出願をしなかった」または、「検定料を二重に払い込んだ」場合です。返還請求方法は、返還請求願・返還請求理由書・「検定料支払・払込証明書」が必要です。大学院環境情報学府係へ問い合わせください。

(6) 官公庁または会社等に在職している者は、入学手続の際、その長または代表者の就学承認書（様式任意）を必要としますので、あらかじめ用意してください。

(7) 入学試験に関する問い合わせは、返信用封筒（住所、氏名を明記し、82円切手を貼付）または返信用はがきを同封し、本学大学院環境情報学府係あてに照会してください。ただし、掲示内容に関する問い合わせには応じません。

(8) 入学手続き後は、どのような事情があっても、入学料の払い戻しはしません。

(9) 在留資格「留学」を取得するに当たっては、留学生生活を維持できる経済的基盤を有している必要があります。

(10) 身体に障害のある入学者の事前相談について

次表に該当する者（出願受付締切後の不慮の事故による負傷者等を含む）は、受験及び修学の上で配慮を必要とすることが起こり得ますので、出願する前に必ず大学院環境情報学府係へ次の様式により事前に相談してください。

なお、次表から判断できない場合については、問い合わせください。

区 分	身 体 障 害 の 程 度
視 覚 障 害	両眼の視力がおおむね 0.3 未満のもの又は視力以外の視機能障害が高度のものうち、拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が不可能又は著しく困難な程度のもの
聴 覚 障 害	両耳の聴力レベルがおおむね 60 デシベル以上のものうち、補聴器等の使用によっても通常の和声を解することが不可能又は著しく困難な程度のもの
肢体不自由	1. 肢体不自由の状態が補装具の使用によっても歩行、筆記等日常生活における基本的な動作が不可能又は困難な程度のもの 2. 肢体不自由の状態が前号にかかげる程度に達しないものうち、常時の医学的観察指導を必要とする程度のもの
病 弱	1. 慢性の呼吸器疾患、腎臓疾患及び神経疾患、悪性新生物その他の疾患の状態が継続して医療又は生活規制を必要とする程度のもの 2. 身体虚弱の状態が継続して生活規則を必要とする程度のもの

(様式) A4 判縦

平成 年 月 日

横浜国立大学長 殿

ふりがな
氏 名
生年月日
住 所 〒
電話番号

横浜国立大学に入学を志願したいので、下記のとおり事前に相談します。

記

1. 志望する学府・専攻・コース
2. 身体の障害の種類、程度
3. 受験に際して配慮を希望する事項
4. 入学後の修学に際して配慮を希望する事項
5. そ の 他

(添付書類) 診断書または身体障害者手帳（写）、その他参考資料

IV 大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例による教育の実施について

本学府では、社会人特別選抜で入学し、入学後も社会人の身分を有する学生（社会人学生）に対して、次のとおり履修等に関する特例を実施しています。

1 修学について

- (1) 修学年限（2年）の年数で修了しようとする学生については、初年度においては原則として全日通学とし、修了要件に必要な共通基礎科目、プレレキジット科目および講義等を履修すること。
- (2) 初年度において修了要件に必要な講義等の履修が困難な学生については、指導教員等（責任指導教員及び指導教員グループ）の指導のもとに、修学年限を超える年数（3～4年）の履修計画書をあらかじめ提出すること。
なお、履修計画に変更がある場合には、その都度申し出て履修計画書を提出すること。

2 履修について

- (1) 講義科目については、各専攻・コースごとに一部の科目を夜間開講可能科目として設定しており、事前に授業担当教員に申し出ることにより夜間に履修することができる。夜間開講可能科目については、入学式後のオリエンテーションで配付する履修案内で確認すること。
なお、共通基礎科目、プレレキジット科目および夜間開講可能科目以外の講義科目については、昼間に履修すること。

[注] 夜間開講の授業時間

時 限	時 間 帯
5 時限	1 6 時 1 5 分 ～ 1 7 時 4 5 分
6 時限	1 7 時 5 0 分 ～ 1 9 時 2 0 分
7 時限	1 9 時 2 5 分 ～ 2 0 時 5 5 分

- (2) 演習科目については、開講時間について配慮するので指導教員等に相談すること。
- (3) ワークショップ・実験については、開講時間について配慮するので指導教員等または各専攻・コースの学務委員に相談すること。

V 長期履修学生について

長期履修学生とは、職業を有している等の事情により、標準修業年限（前期課程2年，後期課程3年）を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修して課程を修了することが認められた者をいいます。

長期履修学生に認定された者は、一般の学生とは異なり、修学年数に関係なく、標準修業年限（前期課程2年，後期課程3年）分の授業料で修学することができます。

1. 申請資格

長期履修学生として申請することができる者は、在学中も職業を有する者とします。

2. 申請の手続き

長期履修学生を希望する者は、次の（1），（2）の書類を入学手続き時に提出してください。

（1）長期履修学生申請書（別紙様式1：平成28年9月上旬の入学手続き書類送付時に送付予定）

（2）在職証明書又は在職が確認できる書類

（3）提出期間は、平成28年9月12日（月）～9月16日（金）（期間厳守）で、入学手続き書類と同封のうえ、大学院環境情報学府係へ提出してください。

3. 可否の認定

申請書類に基づき審査のうえ、認定の可否を決定し、10月中旬に通知します。

4. 在学期間

入学時に長期履修が認められた学生の在学期間は、博士課程前期にあつては2年以上4年まで、博士課程後期にあつては3年以上6年までとなります。

なお、各年度の修了月は、9月のほかに前期課程は3月，後期課程は3月，6月，12月となっていますので、長期履修学生申請書に修了予定年月を記入してください。

5. 授業料の年額

長期履修学生の授業料年額は、授業料の年額に標準修業年限に相当する年数を乗じて得た額を在学期間の年数で除した額となります。

（算出例1）前期課程の長期履修学生申請者が在学期間3年と認定された場合

$$535,800 \text{ 円} \times 2 \text{ 年} \div 3 \text{ 年} = 357,200 \text{ 円}$$

（授業料の年額）（標準修業年限）（認定された在学期間）（長期履修学生の授業料年額）

（算出例2）後期課程の長期履修学生申請者が在学期間5年と認定された場合

$$535,800 \text{ 円} \times 3 \text{ 年} \div 5 \text{ 年} = 321,480 \text{ 円}$$

（授業料の年額）（標準修業年限）（認定された在学期間）（長期履修学生の授業料年額）

6. 在学期間の変更

在学期間の変更は、1度限りです。【詳細は、必ず窓口（大学院環境情報学府係）に相談をすること。】

(1) 短縮

長期履修学生は、認定された在学期間の短縮により修了することができます。（ただし、標準修業年限までとする。）

在学期間の短縮を希望する者は、当該学年を修了する2ヶ月前までに「長期履修学生在学期間短縮願」を提出し、承認を得なければなりません。

(2) 延長

長期履修学生で特別な事情がある場合は、在学期間の延長をすることができます。

在学期間の延長を希望する者は、在学期間が満了する2ヶ月前までに「長期履修学生在学期間延長願」を提出し、承認を得なければなりません。

なお、在学期間は、前期課程4年、後期課程6年を超えることができません。

※在学期間変更後の授業料は、標準修業年限（前期課程2年、後期課程3年）分の授業料からすでに納付済みの授業料を差し引いた分を変更後の期間で新に算出し、納付することになります。

7. その他

長期履修学生の申請にあたっては、あらかじめ志望先指導教員とよく相談してください。

VI 博士課程前期 概要

1. 博士課程設置趣旨

21世紀の課題である持続的循環型社会の実現には、多面的な環境問題、急速に進展する情報科学、ダイナミックな社会のイノベーション等の分野において専門的知識を修得し、課題解決能力を有する人材が求められている。このため、自然破壊、エネルギー問題、資源・食料・生命問題、情報技術革新などの自然環境、人工環境、情報環境に関わる諸問題の理解と解決方法、およびこれらを支える物質・材料に関する教育研究を推進し、環境・情報・技術革新を適切にマネジメントする理論と方法論を幅広く修得し、高い専門性で見識から実践的問題解決能力を有する研究者・実務家を育成する。

本学府には、環境生命学、環境システム学、情報メディア環境学、環境イノベーションマネジメント、環境リスクマネジメントの5つの専攻があり、環境イノベーションマネジメント専攻以外の各専攻の前期課程には、それぞれ2つのコースがあります。専攻、コースの概要は以下の通りです。

専 攻	コ ー ス
環境生命学専攻 授業、実験・実習を通して、生命科学、応用化学、生態学、地球科学に関連する課題探求能力を身につけた研究者、実務現場で活躍できる技術者、管理者などの人材育成をする。このため、分子・細胞レベルのミクロな系から、地球・生態系のようなマクロな系まで複雑かつ階層的な地球生命システムを総体的にとらえ、人類にとって将来あるべき地球環境像の実現に向けた方策と技術の教育研究をする。	地球環境コース 地球上の自然環境自体を総合的システムとしてとらえ、そのメカニズムを教育し、実務現場で即戦力となる技術者や研究機関職員等の人材を育成する。
	生命環境コース 生命・生命システム及び様々な化学物質が生命・生活・生態システムに与える影響を教育し、環境及び生命科学関連産業分野で広く活躍できる人材を育成する。
環境システム学専攻 持続循環型社会の実現に寄与するために、人工物のライフサイクルを視野に入れ、グローバルな問題に対応でき、しかも、実践的・創造的で幅広い政策立案から細かなコンサルティングにまで対応できる高度専門的人材を育成する。このため、デバイス・機械・構造物を形成するマテリアルの物質循環・環境負荷・資源リサイクル、および人工環境空間・移動体に関する環境調和型システムの形成・維持・管理技術、システムデザイン手法において高度で専門的な理論と方法論を教育研究する。	マテリアルシステムコース デバイス・機械・構造物を形成するマテリアルの物質循環・環境負荷・資源確保について教育し、材料分野において創造的な政策立案ができる人材を育成する。
	システムデザインコース 人工環境空間・移動体に関する環境調和型システムの形成・維持・管理技術、システムデザイン手法を教育し、政策立案から細かなコンサルティングにまで対応できる人材を育成する。

専攻	コース
<p>情報メディア環境学専攻</p> <p>情報システムの安全性と情報分析・モデル化を視野に入れた情報システムや情報メディア技術の根幹を支えるシステム開発技術者、設計者、システムアナリストとして活躍できる総合的な目標設定・達成能力を備えた自立的な人材を育成する。このため、環境から情報を取り込み、新しい情報環境を構築するためのソフトウェアや情報処理技術に加え、情報メディアに着目した情報分析・モデル化・表現法、情報システムと人を取り巻く環境の情報セキュリティやコミュニケーション技術、複雑なシステムに対する数理解析手法について教育研究する。</p>	<p>情報メディア学コース</p> <p>環境を含む様々のメディア情報からの意味抽出、情報体系化、モデル化、データベース・ネットワークにおける問題解決手法等を総合的に教育し、情報メディアに関する深い理解と技術を持った人材を育成する。</p> <p>環境数理解析学コース</p> <p>自然界の複雑なシステムを解明するための数値解析、関数解析手法、それを用いたシステム開発を教育し、数理的思考能力に基づいた新しいシステムを開発していける人材を育成する。</p>
<p>環境イノベーションマネジメント専攻</p> <p>企業や行政および関連団体においてイノベーションのマネジメント方法を企画立案し、実行できる専門性と見識を有する人材育成をする。このため、イノベーションについての基本的考え方とその推進戦略、人間環境や社会環境の変化に応じた社会的受容、地球環境との調和などに関する基盤知識と実践的方法論について教育研究する。</p>	<p>企業や行政及びその関連団体等における環境・情報関連ビジネスの推進・起業、技術イノベーションの管理、新技術の評価、環境政策や産業振興政策の推進等の分野において、中核的役割を担う高い専門性と見識をもった人材を育成する。</p>
<p>環境リスクマネジメント専攻</p> <p>企業や行政および関連団体における自然生態系保全、化学物質のリスク管理、産業安全管理、社会システム安全管理、都市防災等の分野において、中核的役割を担う高い専門性と見識、あるいは研究能力を持つ人材を育成する。このため、環境リスクマネジメントの企画、立案と実行に必要とされる現代社会のリスク構造と社会的要因に関する基礎知識、人や動植物等の生命環境リスクおよび産業や都市の事故・災害リスクの評価とマネジメント手法、およびそれらに関する国内外の実態等を教育研究する。</p>	<p>生命環境マネジメントコース</p> <p>国や地方自治体と関連団体及び企業等における自然生態系保全や有害化学物質の環境リスク管理等の分野において、中核的役割を担う高い専門性と見識をもった人材を育成する。</p> <p>セイフティマネジメントコース</p> <p>企業及び国や地方自治体と関連団体等における産業安全管理、社会システム安全管理、都市防災等の分野において、中核的役割を担う高い専門性と見識をもった人材を育成する。</p>

これらのコースから主コースと専攻の異なる副コースを選び、幅広い知識を身につけることも可能です。

2. 環境情報学府・専攻のアドミッション・ポリシー [入学者受入方針]

学府・専攻	アドミッション・ポリシー
環境情報学府 (博士課程前期)	<p>多様な環境問題、急速に進展する情報科学、社会のイノベーション等の分野の専門家として、自然環境、人工環境、あるいは情報環境に関する諸問題の解決と持続的社会的の実現に貢献しようとする人を、文系・理系を問わず広く求めます。</p>
環境生命学専攻	<p>本専攻は、分子・細胞レベルのミクロな系から、地球・生態系のようなマクロな系まで複雑かつ階層的な地球生命システムを総体的にとらえ、人類にとって将来のあるべき地球環境像を共有し、それを実現することを目的にしています。そのために必要な学習や実験、調査などに精力的に取り組み、論理的かつ柔軟な発想で問題を解決する意欲を持った人を求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地球環境や自然現象、生命現象に広い興味を持ち、地球環境問題の解決に強い意欲を持つ人 2. 室内実験や野外調査などに情熱を持って積極的に取り組むことができる人 3. 地球環境の将来について自分の意見を持ち、真剣に考えることができる人、また地球環境の将来像についてのヴィジョンを形成し、その実現に向けて行動したいと考える人
環境システム学専攻	<p>本専攻は、人工物のライフサイクルを視野に入れ、循環型社会の実現に寄与するために、グローバルな問題に対応でき、しかも、実践的でかつ創造的能力を備え幅広い分野に対応できる高度専門的人材育成を目的としています。このため、デバイス・機械・構造物を形成するマテリアルの物質循環・環境負荷・資源リサイクルを意識した製造、および人工環境空間・移動体に関する環境調和型システムの形成・維持・管理技術、システムデザイン手法についての教育のもとに、政策・企画の立案から環境を意識したものづくりや細かなコンサルティングにまで対応できる高度で専門的な素養を持つ人材を養成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ マテリアルシステムコースでは、環境と調和した材料の開発、分析についての基礎知識を有し、発想豊かに柔軟性をもって積極的に取り組める人を求めます。 ・ システムデザインコースでは、環境と調和した人工環境空間およびその要素の形成、制御、維持・管理、システムデザイン技術・手法についての基礎知識を有し、発想豊かに柔軟性をもって積極的に取り組める人を求めます。

<p>情報メディア環境学 専攻</p>	<p>本専攻は情報工学や数理科学を背景とし、安全性と情報分析・モデル化を視野に入れた情報システムや情報メディア技術の根幹を支える技術者、研究者、アナリストとして指導的に活躍できる人材の育成を目的としています。本専攻の関連分野に興味を持ち、情報工学や数理科学に関連する基礎学力を有し、自分で問題を発見して解決していきながら、自ら選んだ専門分野の見識を深め、その学術的展開を志す人を広く求めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報メディア学コース <p>情報工学の基礎的な知識や技術を持ち、データ工学、人工知能、暗号とセキュリティ、画像・音声・言語情報処理、言語学など、人の知能、社会の安全・安心、情報環境や社会環境の分野の先端的な学問と研究を学びたい、という強い意欲をもつ人を広く受け入れ、“情報”に基づいて新しい価値を創造して産業や社会に貢献する優れた人材を育成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境数理解析学コース <p>現代数学をベースに、数理科学の基礎と応用について深い理解と探求心を持った人材を育成します。代数学、幾何学、解析学、離散数学の基礎理論を学び、新しい定理や現象を発見しようという意気込みのある人、また、それらを基礎にして、暗号や符号、画像処理などの情報技術や自然現象をシミュレーションし分析する技術を探求しようとする人を歓迎します。</p>
<p>環境イノベーション マネジメント専攻</p>	<p>本専攻は、企業、シンクタンク、産業振興機関、中央官庁、地方公共団体などにおいて、イノベーション・プロジェクトやイノベーション振興策の企画・立案、実行、評価に関与し、貢献する人材の育成を目的としています。このため、イノベーション推進についての基本的な考え方、人間環境や社会環境の変化に応じてイノベーションが受容されるための条件についての基盤知識、イノベーションが解決すべき地球環境上の課題についての研究を志望する学生を求めます。</p>
<p>環境リスクマネジメント 専攻</p>	<p>本専攻は、企業や行政および関連団体における自然生態系保全、化学物質のリスク管理、産業安全管理、社会システム安全管理、都市防災等の分野において、中核的役割を担う高い専門性で見識、あるいは研究能力を持つ人材の育成を目的としています。このため、人や動物などの生命環境リスク、および産業や都市での事故・災害リスクについての基本的考え方、および評価と改善策に必要な知識と手法を積極的に身につけ、リスクマネジメントの実践を志す人を広く求めます。</p>

3. 環境生命学専攻の指導教員の研究内容および講義科目

1) 地球環境コース

指導教員	研究内容	講義科目
菊池 知彦	海洋の生物多様性と物質の循環に関する研究、海洋生物多様性学、生物海洋学、海洋プランクトン学、動物系統分類学	海洋生物多様性学
間嶋 隆一	古生物学、系統分類学、堆積学、地質学、軟体動物学	海洋古環境学
石川 正弘	構造地質学、高圧地震波速度測定、固体地球ダイナミクス、テクトニクス、地圏環境科学	地圏テクトニクス
酒井 暁子	環境保全論、植物群集の構造解析および生育立地の分析、植物の生活史戦略、植物地理学、植物生態学	環境保全論
下出 信次	海洋生物の生活史戦略、海産カイアシ類、メイオベントス、生物海洋学、浮遊生物学、底生生物学、沿岸環境学	海洋生物環境学
森 章	森林生態学、生態系管理学、景観生態学	植生環境管理学
和仁 良二	古生物学、地質学、堆積学、軟体動物学、古環境学	古生態学
中森 泰三	土壌動物と微生物の相互作用、菌類の被食防衛、土壌生態毒理学	生物多様性科学
小平 秀一 (連携)	個体地球物理学、地震学、海域地球物理学、構造地震学	海域地球物理学 (連携)
山本 伸次	地質学、岩石・鉱物学、個体地球化学、初期地球進化、地球史地球システム変動	地球システム物質循環論
佐々木雄大	生物多様性保全学、景観生態学、草原生態学、生態系管理乾燥地生態系、高山生態系	生態系評価学

2) 生命環境コース

指導教員	研究内容	講義科目
雨宮 隆	非線形ダイナミクス、生物物理化学、化学振動反応、代謝反応、細胞間シグナル伝達、金属ナノ粒子形成ダイナミクス	物質・生命と複雑系
大谷 裕之	構造有機化学、超分子化学	生命と超分子化学
平塚 和之	植物の遺伝子発現制御、生殖細胞形成、DNA修復と遺伝子組換え、植物病理学、植物遺伝子工学の環境科学への応用	植物遺伝子工学 生命環境特設講義 (植物をめぐるリスクマネジメント)
松本 真哉	機能性色素化学、有機結晶化学、有機光電子材料、分子性結晶の光物性、結晶成長機構、分子間相互作用、有機色素合成、環境教育	材料化学のための結晶学
尾形 信一	遺伝子工学、植物分子遺伝学、植物細胞工学、植物染色体工学、減数分裂	植物遺伝子機能学

中村 達夫	植物の代謝生理理解明と応用、高栄養植物の開発、植物-環境相互作用の解明 (植物生理学、分子生物学、生化学、遺伝子工学、代謝工学)	植物環境応答論
本田 清	生命システム化学、有機合成化学、生物活性化合物の合成、機能性有機化合物の合成、ビタミン・ホルモン、選択的合成反応、グリーンケミストリー	生命システム化学
塗谷 睦生 (連携)	薬理学、生物物理学、電位依存性チャネル、神経細胞、翻訳後修飾、樹状突起、神経伝達物質	生命高次適応科学 (連携)

*連携教員を志望指導教員として希望する場合は予め、表紙裏面の専攻・コース別問い合わせ教員に相談して下さい。

4. 環境システム学専攻の指導教員の研究内容および講義科目

1) マテリアルシステムコース

指導教員	研究内容	講義科目
鈴木 淳史	環境調和材料、エコマテリアル学、機能性材料、ゲルの科学と技術	自律環境応答材料
跡部 真人	有機電気化学、電解重合、環境調和型電解合成プロセス	環境調和合成プロセス学
多々見純一	セラミックスの微構造と力学特性、先進セラミックスプロセスング、線形破壊力学、破壊統計論、評価設計手法	構造材料科学
荒牧 賢治	溶液化学、界面化学、界面活性剤分子集合体の構造制御とその環境低負荷材料・プロセスの創製への応用	機能性溶液学
田中 良巳	ソフトマター物理学、生体高分子の非線形レオロジー、破壊の物理学、アメーバ運動の力学	材料物理学
伊藤 暁彦	環境材料学、材料合成、レーザー利用、機能性薄膜の合成	環境生材料学
飯島 志行	粉体材料プロセスング、微粒子・ナノ粒子表面改質、コロイド・界面化学、複合材料機能制御	機能性材料科学

2) システムデザインコース

指導教員	研究内容	講義科目
森下 信	振動制御、ニューラルネットワーク、インテリジェントシステム、機能性流体、セルオートマトン、複雑系、バイオメカニクス	調和システム学
上野 誠也	最適制御理論、数値最適化、航空機の最適飛行経路、惑星探査機の軌道設計、人工衛星の姿勢制御、宇宙ロボットの自律制御	極限環境システム論
山田 貴博	計算力学、有限要素法、数値解析、固体力学、流体力学	シミュレーション数理

村井 基彦	海洋工学、海洋エネルギー、浮体式構造物設計、海洋空間利用システム、流力弾性学、海洋環境工学	浮体運動の数理モデル論
中野 健	トライボメカニクス、摩擦散逸プロセス、接触界面のダイナミクス、可視化技術と計測制御技術	非線形力学特論
白石 俊彦	振動制御、インテリジェント構造、機能性材料、複雑系、ニューラルネットワーク、バイオエンジニアリング、細胞の力学	インテリジェント構造システム学
松井 和己	マルチスケール・マルチフィジックス計算力学、マルチスケール解析による材料特性の評価、計算力学手法による構造物の最適設計	数理解析モデリング
樋口 丈浩	航空宇宙工学、航空宇宙機設計、飛行ロボットの設計制御、航空機の誘導制御、宇宙構造物の設計制御	空間利用工学

5. 情報メディア環境学専攻の指導教員の研究内容および講義科目

1) 情報メディア学コース

指導教員	研究内容	講義科目
岡嶋 克典	視覚・画像情報処理、認知脳科学、五感工学、バーチャルリアリティ、福祉システム工学	3次元画像表現
後藤 敏行	視覚情報処理、画像理解、医用画像処理、ヒューマンインタフェース、ロボットビジョン	視覚情報システム論
四方 順司	暗号理論、情報理論、理論計算機科学、計算数論	数理アルゴリズム基礎論
白川 真一	知能情報処理、人工知能、進化計算、機械学習、画像処理・認識	
田村 直良	自然言語処理、自然言語インタフェース、文章の自動文脈解析、音声合成応用、音声認識応用	言語とコンパイラ
富井 尚志	データ工学、マルチメディアデータベース、データベースの高度応用	映像データベース論
長尾 智晴	知能情報学、知的画像処理、感性脳情報科学、進化計算法、金融工学、知能ロボティクス、医工連携工学	知能情報処理論
藤井友比呂	理論言語学、統語論、言語獲得	理論言語学
松本 勉	情報セキュリティ、暗号アルゴリズム、セキュリティプロトコル、情報利用管理、バイオメトリクス、耐タンパー技術	暗号と情報セキュリティ
マーティン ロジャー	理論言語学、言語哲学、統語論、意味論、言語習得理論	数理言語学
森 辰則	デジタルドキュメント処理、情報検索、情報抽出、自然言語処理、自然言語インタフェース	言語情報処理原論
吉岡 克成	ネットワークセキュリティ、情報システムセキュリティ、マルウェア対策	コンピュータネットワークアーキテクチャ

2) 環境数理解析学コース

指導教員	研究内容	講義科目
有光 直子	物理数値解析、非平衡統計物理、コンピューター応用	応用数値解析
牛越 恵里佳	流体力学、領域摂動、アダマール変分公式、偏微分方程式論 ストックス方程式	解析学特論
大石 彰	可換代数学、代数多様体と特異点、局所環、次数付き環、ヒルベルト関数	環と体の数理
白崎 実	計算流体力学 (CFD) 、自由表面を含む流れ、計算バイオメカニクス、ボクセルベース流体解析	計算流体力学概論
中本 敦浩	位相幾何学的グラフ理論、離散数学、計算幾何学	組合せの数理
西村 尚史	特異点論、分岐理論、カタストロフ理論、フラクタル	特異性の幾何学
額田 順二	学校現場の情報化と情報教育、教育・社会の情報化、学習サービスの国際標準、都市地域のデータ分析	地域社会の情報化とイノベーション
根上 生也	位相幾何学的グラフ理論、離散数学、低次元トポロジー	空間とトポロジー
野間 淳	代数幾何学、射影多様体、代数曲線、ベクトル束、定義方程式	情報代数学
原下 秀士	整数論、代数幾何学、アーベル多様体、モジュライ空間、形式群、 p -可除群、有限群スキーム	整数論の基礎

6. 環境イノベーションマネジメント専攻の指導教員の研究内容および講義科目

指導教員	研究内容	講義科目
周佐 喜和	グローバル企業の戦略と組織、国際技術移転、経営の国際比較、企業のイノベーション・マネジメント	イノベーション組織論
竹田 陽子	情報技術の経営組織・戦略に及ぼす影響、組織論、戦略論、技術マネジメント論	情報技術と経営戦略
安本 雅典	製品開発、イノベーション組織のマネジメント、製品開発組織の国際比較、企業間関係のマネジメント	イノベーション戦略論
志田基与師	理論社会学、数理社会学、社会的選択理論、日本婚姻儀礼史	イノベーションと社会的合意形成
安藤 孝敏	高齢社会論、エイジング論、地域社会論、社会調査法	共生社会創生論
長谷部英一	中国科学史、中国天文学、中国医学	イノベーション思想史
本藤 祐樹	持続可能社会に向けた技術リスクの評価・管理、環境・エネルギー問題のシステム分析 (LCA, 産業連関表を用いた分析など)、国や地域における環境・エネルギー政策	ライフサイクル・アセスメントと持続型社会
宮崎 隆	哲学	環境と認識

鳴海 大典	都市エネルギー・熱代謝系、持続可能な都市・建築設計、エネルギーイノベーション、先端技術の社会適応マネジメント、ヒートアイランド	イノベーションと環境マネジメント
遠藤 聡	地域経済学、地域イノベーション政策、比較地域制度アプローチ、日本・米国・北欧諸国の比較地域経済研究、内発的発展論、地域間イノベーション・ネットワーク	地域イノベーション論
萩原 一平 (連携)	情報技術革新と企業環境、環境情報の共有化とネットワーク戦略、ITアウトソーシング戦略、コミュニティ・ナレッジ・マネジメント	環境コミュニケーションと脳科学 (連携)
吉村 哲哉 (連携)	ハイテクベンチャー経営、ベンチャー創出メカニズム、国内外のクラスター構造、諸関係機関とクラスターの関係、産学官連携、クラスター政策	ベンチャー・クラスター論 (連携)
工藤 祐揮 (連携)	エネルギーシステム分析、エネルギーのニーズとシーズ、要素技術の環境性能評価、低炭素システム設計、持続可能性評価、交通システム分析	エネルギー環境システム論 (連携)

*連携教員を志望指導教員として希望する場合は予め、表紙裏面の専攻・コース別問い合わせ教員に相談して下さい。

7. 環境リスクマネジメント専攻の指導教員の研究内容および講義科目

1) 生命環境マネジメントコース

指導教員	研究内容	講義科目
及川 敬貴	世界と日本の環境法、事故・災害被害防止の法制度、欧米と日本の環境政策比較、環境政策の決定過程とNGO、自然保護運動の役割と課題	市民運動と環境政策 環境リスクマネジメントのための国際社会制度
大矢 勝	情報表現と環境リスク認識、消費者情報の分析・評価システム、環境問題の次元認識、洗剤の環境影響、洗浄技術・試験法	生活者のための環境リスク情報の評価
金子 信博	陸上生態系の食物網構造の解析、陸上生態系の栄養塩類と炭素比等の生態化学量論、土壌汚染による生態系リスク管理の理論と実証	土壌生態系リスクマネジメント
亀屋 隆志	資源の有効で安全な循環利用技術、廃棄物処理におけるリスク情報とマネジメント技術、化学物質の環境安全性評価と発生源・排出源のマネジメント手法	資源循環・廃棄物リスクマネジメント
小池 文人	生態特性による植物群集の組み立て規則、外来種の侵入リスク評価、動物の影響を含めて多様性を保全できる景観の設計	植物個体群・群集生態マネジメント
中井 里史	環境疫学、環境健康リスク評価・リスクマネジメント、曝露及び健康、影響指標、因果推論、大気汚染、室内環境、食品安全	環境疫学・健康リスク評価方法論
藤江 幸一	環境汚染の評価と対策、資源・エネルギーの有効利用、物質循環、リサイクルプロセス、人工生態系の持続的維持管理、バイオレメディエーション	環境汚染リスクの評価と対策技術

益永 茂樹	環境汚染モニタリング、化学物質の発生源・環境挙動・リスクの解析、モデルシミュレーション、リスク便益評価	化学物質の環境動態とリスクモデル
		リスク社会論
松田 裕之	環境リスク評価、絶滅危惧種の判定、予防原則、環境政策、生態系の管理と保全、合意形成、環境影響評価、エコロジカルフットプリント、順応的管理、進化理論	生態リスクマネジメント理論
		リスク分析論
竹田 宜人 (連携)	化学物質のリスク評価、リスクコミュニケーション、災害情報学、リスク情報の市民への伝達手法	リスクコミュニケーション論 (連携)
倉持 秀敏 (連携)	リサイクル技術、循環技術システム、廃棄物適正処理技術、バイオ燃料製造技術、有害化学物質の物性測定と評価	地球環境保全と循環型社会形成技術 (連携)

*連携教員を志望指導教員として希望する場合は予め、表紙裏面の専攻・コース別問い合わせ教員に相談して下さい。

2) セイフティマネジメントコース

指導教員	研究内容	講義科目
大谷 英雄	化学物質のセイフティマネジメント、産業災害のリスクリテラシー、化学プラントのリスクアセスメント、化学産業のリスクマネジメント	化学物質のセイフティマネジメント
		リスク分析論
岡 泰資	火災ハザード解析と評価、火災原因調査、可燃物の燃焼性状と煙・熱の流動性状、火災感知と作動時間予測	火災の科学と防火技術
		リスク社会論
笠井 尚哉	非破壊検査、有限要素シミュレーション、逆問題解析、リスクベースインスペクション、災害事故統計分析	設備検査と事故原因解析
熊崎美枝子	化学プロセスのリスク評価、化学産業の総合安全管理技術、ヒューマンファクターと組織の安全文化	化学反応プロセスのリスク評価と制御技術
小林 剛	化学物質の有害性・危険性関連情報の収集方法及び利用方法、効率的な土壌・水質・大気の汚染評価方法、有害化学物質の管理方法	化学物質の有害性・危険性情報と社会的利用
澁谷 忠弘	機械システムのリスクアセスメント、機械構造物の強度信頼性、故障物理と信頼性評価、ヘルスマニタリングによる破壊制御、未然防止設計	機械システムのリスク評価と制御技術
野口 和彦	企業における環境安全管理組織、社会的要請と企業のリスクマネジメントシステム、リスク対応型社会システム構築方法	安全・安心のための社会組織論
松宮 正彦	環境調和型プロセス技術、希土類廃棄物リサイクル技術、電気化学システム開発	環境リスク評価のための電気化学解析論
三宅 淳巳	化学物質のフィジカルリスク解析、化学災害の影響評価、エネルギー物質の爆轟特性解析、技術システムのリスク解析と管理手法の検討	地域社会と化学災害リスク論

畑山 健 (連携)	地震の予知、地震災害の評価、都市防災システム、災害情報伝達、緊急事対策	地震リスク評価学 (連携)
--------------	-------------------------------------	------------------

*連携教員を志望指導教員として希望する場合は予め、表紙裏面の専攻・コース別問い合わせ教員に相談して下さい。

8. 履修方法

博士課程前期修了に必要な履修単位は下記の通りです。

環境生命学専攻・環境システム学専攻・情報メディア環境学専攻

授 業 科 目		修了に必要な単位数
演 習		8 単位以上
ワークショップ・実験		2 単位以上
講 義	専 門 科 目	8 単位以上
	共通基礎科目	4 単位以上
	選 択 科 目	8 単位以上
合 計		30 単位以上

環境イノベーションマネジメント専攻・環境リスクマネジメント専攻

授 業 科 目		修了に必要な単位数
演 習		8 単位以上
ワークショップ・実験		2 単位以上
講 義	①共通基礎科目	4 単位以上
	②専攻共通コア講義科目	4 単位以上
	③イ) 専攻専門講義科目 リ) コース専門講義科目	6 単位以上
	専攻(コース)選択専門講義科目	①②③を含んで20 単位以上
合 計		30 単位以上

イ) 環境イノベーションマネジメント専攻

リ) 環境リスクマネジメント専攻

そのほか、学生の基礎的知識を補充するためにプレレキジット制度を設けます。すなわち、学生は指導教員が必要と判断したときは、基礎的知識を補充するためにプレレキジット科目を履修しなければなりません。履修すべき科目は、個々の学生ごとに指導教員が指示します。プレレキジット科目の履修を求められた学生はその単位を取得しなければ学位論文作成資格を得ることができません。プレレキジット科目は、修了に必要な単位には含まれません。

- ・演習の単位は各教員が春学期および秋学期に開講する科目で、複数年に渡って重複して単位を取得することができます。(一部の演習を除く)
- ・学位論文のための研究に対しては単位を与えません。
- ・単位は本学府授業科目の中から修得することを原則としますが、指導教員が必要と認める場合には、10単位を限度として、本学大学院他研究科および他学府(教育学研究科、国際社会科学府博士課程

前期、工学府、都市イノベーション学府)、単位互換を申し合わせている他大学大学院研究科の授業(講義科目)で代えることができます。

9. 学 位

プレレジット科目及び修了に必要な科目を履修し、研究論文を作成し審査に合格した者には学位が与えられます。

本学府の前期課程で取得できる学位は以下の通りです。

専 攻	取得できる学位
環境生命学	修士(環境学)、修士(工学)、修士(学術)
環境システム学	修士(環境学)、修士(工学)、修士(学術)
情報メディア環境学	修士(情報学)、修士(工学)、修士(学術)
環境イノベーションマネジメント	修士(環境学)、修士(技術経営)、修士(学術)
環境リスクマネジメント	修士(環境学)、修士(工学)、修士(学術)

[注] 学位審査委員会の判断により、学生は取得学位を選択することができます。

10. 短縮修了

博士課程前期の在学期間は標準2年ですが、本学府では、特に研究業績が優れた者に対して短縮修了を認めています。この場合の在学期間に関しては、1年以上在学すれば足りるものとします。

短縮修了を希望する者は、指導教員グループのもとで履修条件を満たす単位修得が可能になるように履修計画を立てることになっております。

VII 博士課程学生への経済支援、教育・研究支援制度について

博士課程の学生が、経済的理由等により学業に専念できないことがないように、また、学生の研究活動が活発に行われるよう、さまざまな形での経済支援、教育・研究支援の制度が取られています。

経済支援の概要

◆日本学術振興会特別研究員

※対象:博士課程後期学生

日本学術振興会が行う制度で、優れた若手研究者に、研究に専念する機会を与えることにより、我が国の学術研究の将来を担う創造性に富んだ研究者の養成・確保に資することを目的とした、大学院博士課程在学者を対象に研究奨励金を支援する制度です。

特別研究員 DC1 (博士課程後期第1年次在学学生) 200,000円/月
DC2 (博士課程後期第2年次以上在学学生) 200,000円/月

*平成27年度実績: DC1 1名 DC2 3名

◆日本学生支援機構奨学金

※対象:博士課程前期・後期学生

日本学生支援機構が行う大学在学学生に対する奨学金を貸与する制度で、第一種(無利子)、第二種(有利子)の区分が設けられています。なお、10月上旬に、予約採用に関する説明会があります。

第一種(無利子):博士課程後期 122,200円/月
第一種(無利子):博士課程前期 88,000円/月
第二種(有利子): 50,000円・80,000円・
100,000円・130,000円・150,000円/月から選択

*平成27年度実績:第一種 博士課程前期 129名 博士課程後期 22名
:第二種 博士課程前期 26名 博士課程後期 2名

◆横浜国立大学授業料免除

※対象:博士課程前期・後期学生

経済的理由により授業料の納付が困難で、かつ学業が優秀な学生が申請でき、申請者の中から選考のうえ、各学期の授業料の全額または半額が免除される制度です。

全額免除(各学期) 267,900円
半額免除(各学期) 133,950円

*平成27年度実績:全額免除(春学期) 博士課程前期 23名 博士課程後期 21名
(秋学期) 博士課程前期 52名 博士課程後期 27名
:半額免除(春学期) 博士課程前期 62名 博士課程後期 29名
(秋学期) 博士課程前期 36名 博士課程後期 21名

◆RA(リサーチ・アシスタント)(環境情報研究院)

※対象:博士課程後期学生

博士課程後期学生の授業料免除申請者を対象とし、授業料半額免除者及び、授業料免除非該当者をRAとして雇用し、支援を行う制度です。

ただし、日本学術振興会特別研究員、授業料相当額以上の奨学金受給者(日本学生支援機構の奨学金貸与者除く)、一定額以上の収入のある者(社会人学生等)、留年生(ただし、休学期間のある学生は、別途考慮)、国費外国人留学生、外国政府等派遣留学生等は対象となりません。

授業料半額免除者 267,900×1/4相当額
授業料免除非該当者 267,900×1/2相当額

*平成27年度実績:33名

- ◆TA(ティーチング・アシスタント)(横浜国立大学) ※対象:博士課程前期・後期学生
教育的配慮の下に教育補助業務に携わることにより、大学院学生が将来教員・研究者になるためのトレーニングの機会の提供を図り、これに対する手当を支給して支援を行う制度です。
*平成27年度実績: 博士課程前期 224名 博士課程後期 25名

- ◆環境情報学府女性院生研究支援奨学金 ※対象:博士課程後期学生
博士課程後期学生(女性)で、子育てや介護等で経済的に困難を抱えている女性院生が申請でき、申請者の中から選考のうえ、勉学支援のための奨学金を付与する制度です。
月額 3万×5ヶ月(予定)
*平成27年度実績: 2名

教育・研究支援の概要

- ◆横浜国立大学国際学術交流奨励事業(国際会議等出席・海外調査研究等)
※対象:博士課程前期・後期学生
海外における国際会議等での研究発表及び調査研究等に対し、奨励金を支給することにより、学生の研究活動の活性化を図ることを目的とした制度です。
申請者の中から選考のうえ、渡航する地域により、奨励金が給付されます。
*平成27年度実績: 博士課程後期 5名

- ◆国際学会等における発表等支援事業(環境情報学府)
※対象:博士課程後期学生
博士課程後期学生が、原則として海外で開催される国際学会・研究集会に積極的に参加できるよう、参加に必要な経費を援助することにより、国際的に活躍できる研究者の養成に資することを目的とした制度です。
横浜国立大学国際学術交流奨励事業に応募することを前提として申請を受け付け、不採択となった学生に対して審査が行われ、経費の援助を行います。

海外の場合: 140,000円(上限)
国内の場合: 60,000円(上限) いずれも、旅費として支給
*平成27年度実績: 5名

- ◆環境情報研究院共同研究プロジェクト「課題C」 ※対象:博士課程後期学生
独立して研究を行う環境情報学府博士課程後期学生を支援することを目的として、新規プロジェクト課題を募集し、審査を経て採択された課題に研究費を配分する制度です。
*平成27年度実績: 15名

VIII 提出用書式集

以下の頁には環境情報学府を受験するために必要な提出書類の書式を集めてあります。本冊子より切り取って必要事項を記入し提出しなければならない書式と、ここにある書式をまねてワープロなどで別の用紙に文書を作成して提出してもよい書式とがあります。以下の表は、この表のあとに収められているいろいろな書式の用い方についてまとめてあります。提出文書の作成に役立ててください。

出願書類内訳書別紙1 **筆**・別紙2 **特**又は別紙3 **社**を下記種類に添えて提出して下さい。

書式番号	書式タイトル	利用方法及び使用にあたっての注意
書式1	入学願書	綴じ込まれている用紙を使用
書式1-1	研究室調査	綴じ込まれている用紙を使用
書式2	社会人特別選抜入学願書	綴じ込まれている用紙を使用
書式3	履歴書	綴じ込まれている用紙を使用
書式4	研究(希望)計画書	綴じ込まれている用紙を使用してもよいが、この書式でA4用紙にワープロなどで印字して提出しても構いません。なお、本文は、1,000字以内で作成してください。
書式5	出願資格認定申請書	綴じ込まれている用紙を使用
書式6	出願資格認定調書	綴じ込まれている用紙を使用してもよいが、この書式でA4用紙にワープロなどで印字して提出しても構いません。
書式7-1 書式7-2	特別選抜出願資格証明書 特別選抜推薦書	綴じ込まれている用紙を使用
書式8	出願資格証明および推薦書	綴じ込まれている用紙を使用
書式9	特別選抜入学確約書	綴じ込まれている用紙を使用
書式10	検定料支払(払込)受付証明 書貼付用紙(入学検定料 30,000円)	綴じ込まれている用紙を使用

平成28年度10月入学横浜国立大学大学院環境情報学府入学願書および受験票 記入の手引き

- (1) 記入は黒又は青のボールペンを用い、楷書で正確に記入してください。
- (2) 受験番号※の欄は記入しないでください。
- (3) 志望専攻名の欄および志望コース名の欄には、いずれか一つだけを記入してください。
- (4) 外国人は、国籍を記入し、在留カードの写し(両名)またはパスポートの写しを添付してください。
- (5) 入学願書の裏面にある履歴事項も忘れずに記入してください。
- (6) 志望先指導教員欄は、教員名を1名記入して下さい。
- (7) 志望先指導教員との連絡日は、入学出願に当たって連絡した日を記入して下さい。